

## 三国峠 地形図「久多」 地形図では「三国岳」となっている ポンポン山雑感

2019年12月24日

三鍋敏郎

若走路谷に行く予定を変更し、若走路谷左岸の尾根歩きとする。P637mから南東に伸び南に折れる尾根に上がる必要がある。標高差60mも登れば良いのだが、非常に厳しい急斜面が続く。尾根の上に出ると森の様子が何かおかしい。コナラなどの自然林が、全面的に立ち枯れになっており無残。普通のナラ枯れは、こんな風にすべての樹林が全滅することは無い。植林する為、伐採の手間を省くための薬剤を撒いたのだろうか、下流の水源にも何らかの影響が出ているだろう。

怪しい植林地を抜けると、暫くは美しい自然林が続く。一部植林が混じるが、概ね自然林の楽しい道が続いている。自然林が終わり植林帯になり、P677mが近づくと、台風の影響なのか杉の倒木帯で歩きにくい場所に出る。

国境尾根に出ると広大なブナ林が見られる。ナベクボ峠から暫くは自然林の中の登りが続く。この辺りは春にはマメザクラなどが咲き、楽しい花の道になる。

登りきった辺りが二重稜線で窪地があり、雨が多いと水たまりが出来、動物たちのヌタ場になる保養地である。この辺りの地形に注意しないと真っすぐ進んで、全く違うピークに登ってしまう恐れがある。左手に小ピークが見えているが、これが三国峠である。踏み跡を辿り、山頂に上がると、いつもなら展望があるが、本日は霞んであまり見えない。ランチにはまだ早いので、記念写真を撮り、下山にかかる。

山頂から30分ほどブナの混じる美しい自然林を下る。本日は、生杉原生林に下るルートを外して、三国峠の南東尾根を歩く。普通に原生林に下ってしまうと、生杉のから長い林道歩きとなるので、それを避ける理由もあるが、他の興味もある。

本来の下降点から、外れて尾根を行くと、暫くは藪が道を塞いで邪魔をする場所があるが、尾根に乗ってしまえば歩きやすくなる。痩せ尾根が複雑に折れ曲がるのでポイント、ポイントで慎重に読図をしながら歩く。やがて美しい自然林の広い尾根に出る。コナラなどが多いので、木の実などの食糧が豊富で動物たちにとっては、人間の来ない静かな楽園なのだろうが、極たまに、変な人間達が通過するので迷惑なのかもしれない。

★メンバー 西川・三鍋 ★コース 谷入口 8:57～P677の南コル 10:00～ナベクボ峠 10:13～三国峠 10:38 発 47～登山口 12:24